

訳者解説

「Helping Health Workers Learn」で 学び方を学ぶ



Bit.ly/41D2vff



学ぶことは変えること - 自分と地域の力を引き出すアイディアブック

著者：デビッド・ワーナー、ビル・バウアー

監訳：(公財) アジア保健研修所 (AHI)、(一社) Bridges in Public Health (BiPH)

出版社：銀河出版 2023年3月出版

本誌の読者の多くは、「Where There is No Doctor」(WTND) をご存じだろうと思います。医療機関から遠く離れたところで人びとの健康を守るための手引書としてアメリカ出身の生物教師であったデビッド・ワーナー氏が、メキシコ農山村での経験をもとに書いたものです。初版の1970年以降100以上の言語に翻訳されたミリオンセラーで、プライマリ・ヘルス・ケアを牽引したと言っても過言ではないでしょう。途上国の現場で活用した経験をお持ちの方もあられるかもしれません。

WTNDは単なるマニュアルではなく、コミュニティのなかで健康を守るということについて著者の思想を示しています。それを実現・実践するにはどうしたらよいかを述べているのが「Helping Health Workers Learn」(HHWL)です。1982年に発表され、WTND同様、本書も100以上の言語に翻訳され、改訂を重ねています。

HHWL原書のタイトルにある“Health Workers”は、医師、看護師などの有資格医療従事者を指すものではありません。コミュニティで村人の健康のために働く“村落保健ボランティア”であり、また村人に保健の知識を提供し、そのことを通して人びとのエンパワメントをめざそうと活動する人たちのことです。伝統的な産婆さんなど近代的な医学教育を受けていないその人たちの力をどう引き出すか。具体的なトレーニング方法や教材の作り方を示すとともに、人びとの文化的



な背景や日常での経験を重視し、彼ら彼女らの理解を促そうとする内容となっています。

WTNDは過去2回日本語に翻訳されていますが、HHWLは日本語訳がなく、あまり知られていないようでした。そこで、仲間を募って翻訳したのが「学ぶことは変えること - 自分と地域の力を引き出すアイディアブック」です。

このタイトルは原書に出てくる TO LEARN IS TO CHANGE からとったものです。ここには、本来学ぶとは学習する人の主体的行動へとつながるべきものであり、教える立場にある人は学習者の創造的学習プロセスを育まなければならないというメッセージが込められています。保健医療分野だけではなく、ひとつづくりやまちづくりなどさまざまな分野において、よりよい変化をめざして行動する誰

にとっても示唆が得られるものであると思います。

29人の翻訳ボランティア、監訳チームが力を合わせました。本書の大きな魅力となっているイラストを含めて、600ページ以上の大作である原書のテイストそのままに翻訳できたと自負しています。巻頭には、デビッド・ワーナー氏と氏の友人である本田徹氏にメッセージを寄せていただきました。また、初版から40年以上経た今日、本書を使用するにあたっての解説や訳注も付けました。

ぜひ、みなさまの活動においてご活用ください。なお、PDF版もありますので、詳しくは、QRコードから Helping Health Workers Learn 日本語版特設サイトをご覧下さい。

注) 書籍の一部を写真でご紹介していますが、非営利に限り転載が許可されております。